

丹波市 地域おこし 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

農業を学び、新たな担い手となる

みやひがし のりまさ
宮東 典正さん vol.35

経歴：大阪府富田林市出身。商社で鉄鋼製品の営業に従事した後、半農半公の地域おこし協力隊2期生として農業に取り組む。任期：平成29年4月～



こんにちは。平成29年4月に、地域おこし協力隊として西宮市から家族で移住してきた宮東です。任期3年のうち2年半が過ぎ、残りは約半年になりました。

研修1年目は、視野を広げるため、市内の農家で様々な作物の勉強をしました。2年目以降は、現在居住している地域の農家にお世話になり、品種を絞って米や野菜の栽培を勉強しています。

天候・立地条件・土質によって生育状況が大きく変わるため、農業は基本的に1年に1回の勝負です。農業経験ゼロから少しずつ農業知識や経験は増えていますが、自然災害や獣害に遭うこともあり、農業は経験値が物をいう業種だと身に染みて感じています。だからこそ、半農半公として3年間の研修期間を

いただいたことを感謝しています。

あと半年で農業者として自立する立場となり、厳しい状況が待ち構えていると思います。しかし3年間の研修経験を生かし、また地域の方にもお世話になりながら、一人前の農業者になれるよう頑張っていきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします！



稲刈りをする宮東隊員

市長コラム 丹波語り

ケント市長・オーバン市長来丹



今年10月、姉妹都市提携しているアメリカ合衆国ワシントン州のケント市長・オーバン市長が来丹されました。お二人とも女性です。

私はお別れ会の時に思い切つて尋ねました。「アメリカでは女性の市長さんは多いのですか？」すると「ワシントン州では約30%が女性です」と答えられました。

私は驚きました。日本では全国で女性市長の割合は、わずか3%程度ですから。そこで再び質問しました。「あなたはどのようなにしてガラスの天井を突破したのですか？」

この問いの「ガラスの天井」とは、一見飛び上がれそうなのに、頭の上に透明なガラスの壁があつてジャンプを阻んでいる状態の例えです。アメリカの大

統領選挙に挑戦して、苦杯をなめたヒラリークリントン女史がしばしば口にした言葉でした。

ケント市長は言いました。「目の前に為さねばならない課題が山積しているのに、男の仕事だとか、女の仕事だとか言っている場合ではないでしょうか？一人の市民として全力で立ち向かうと思っただけです。」

実に明快な胸のすく答弁に、私はすっかり納得しました。確かにお国柄の違いはあるかもしれませんが、ケント市長のおっしゃる時代が近いうちに日本にも到来する予感がしています。



ケント市のラルフ市長（左）、オーバン市のバックス市長（中央）

丹波市長 谷口進一